

福高はあなたの「みらい」を応援します！

文理科学科

文理科学科は「進学に特化した専門学科」です。難関大学や医歯薬系を目指したハイレベルな授業を展開し、「みらい学」において京都大学と連携し、論理的思考力、豊かな教養、発想力、問題解決能力を培い、日本や世界の「みらい」社会の創造と発展に寄与する人材の育成を目指します。これから、文理科学科のいろいろな取組を紹介していきます。

自分をしっかり管理し(自律)、素晴らしいスタートをきろう！

希望を胸に 平成23年度文理科学科43名が入学



4月8日、平成23年度福知山高等学校入学式が挙行されました。卒業した文理科学科の先輩たちの輝かしい進路実績を受け継ぐべく、希望を胸に第5期生43名が入学しました。

入学式では、坂根文伸校長が式辞の中で、高校生活を有意義に過ごすための四つの“心構え”(①知の獲得 ②チャレンジ精神 ③自分の輝き発見 ④良識ある社会人)を紹介され、また入学式後のホームルームでは、担任の高見沢美樹先生(国語)が、心身ともに健康で、自分をしっかり管理し、素晴らしい高校生活をスタートしようと激励されました。新入生のやる気に満ちた眼差しが大変印象的でした。

<文理科学科 第5期生(平成23年度入学) 出身中学校別一覧(43名)>

桃映中	南陵中	成和中	六人部中	日新中	三和中	綾部中
3	12	4	5	9	2	4
何北中	青葉中	他府県				
1	2	1				

自分の“夢”を実現！

京大・阪大・神戸大など難関大学に合格 第2期生の進路実績

今春、文理科学科から2回目の卒業生が出ました。進学に特化した専門学科にふさわしく京都大学、大阪大学など難関大学に多数合格しました。自分の夢を最後まで諦めない強い精神力で輝かしい進路実績を残しました。

<文理科学科 第2期生 進路実績> 主な合格先(数字は合格延べ数)

◎**国公立大学 28名合格**

京都大学	1名	大阪大学	2名	神戸大学	1名	神戸市外大	2名
名古屋大	1名	広島大学	2名	金沢大学	2名	岐阜薬科大	1名

など

◎**私立大学 58名合格**

早稲田大学	1名	同志社大学	4名	立命館大学	10名	関西学院大学	5名
-------	----	-------	----	-------	-----	--------	----

など

「みらい学Ⅰ」開講！

神戸大学教授による特別講義を受講し、農学の研究活動を開始

みらい学とは…

福知山高校文理科学科独自の取組です。

- 1年生で履修する「みらい学Ⅰ」は、次のような内容です。
 - 大学や社会の最前線で活躍されている方々を講師にお招きし、特別講義を通して多様な学問に接します。
 - 講師の先生方から、それぞれの学問テーマに即した研究課題を与えていただき、その課題について、グループで研究活動を実践します。

このように「みらい学Ⅰ」では、さまざまな学問を体験し、研究手法について学ぶことを通じて自分の「みらい」（進路設計）を考えることを目的としています。



4月16日、今年初めての土曜講座を利用して、第1回目の特別講義を開催しました。今回は神戸大学大学院農学研究科教授土佐幸雄先生に「大学における教育と研究—農学の視点から」というテーマで御講義いただきました。前半の講義では「日本から世界へ そのためにはどのような力が必要か」についてお話をされました。土佐先生は「基礎学力」を土台とした「観察力」と「創造力」の大切さ、具体的には高校生の中に「基礎学力」である英語力・国語力・コンピュータを操作する力をしっかり身に付けることが大切だと力説されました。また後半の講義では生徒たちにグループで研究する4つの課題（農業問題・食料自給問題・放射線の健康への影響・エネルギー問題と原子力）を提示されました。生徒達は8班に分かれ、この課題のなかから1つを選び、これからの「みらい学Ⅰ」で研究活動に入ります。その成果を5月14日（土）、本校で行われる研究交流会でポスターセッションの形式でそれぞれ発表します。

私がこの学校、この学科を志望した大きな理由の1つは、みらい学の授業を受けてみたいと思ったからです。だから初めての授業で少し不安はありましたが、とても楽しみにしてきました。今日、講義を受けて、予想以上に面白く、次からの研究活動も楽しみにになりました。

私がまず興味を持ったのは農業問題でした。私の家も農家ですが、畑の野菜や果物は農薬を使わずに栽培しています。そのために、虫に食われていない野菜はなく、ひどい時は全く食べられないこともあります。しかし、虫取りの作業をしたり、ネットをかけたり様々な工夫をしているので、少々虫にやられていても全然気になりません。しかし今日の授業で、無農薬の野菜さえも毒に汚染されている時もあると知り、少しこわいと思いました。

四方 未佳子（綾部市立綾部中学校）



今日は初めてのみらい学ということで、「大学における教育と研究—農学の視点から」というテーマの講義を受け、国際化の進んだ現代を生きていくために必要な基礎学力として、英語やコンピュータを使いこなすことが必要だと知った。そして、科学者と技術者は向いていく方向が、発見と発明であるという点で異なるが、両者を明確に切り離すことはできず、互いに共通したところがあり、それらを支えているのは、基礎学力であるということを知り、まず、この力をつけていく必要があると思った。

農業はつらくて、地道に続けるイメージしかなかったが、植物病や飢饉が起ると国を揺るがすようなことにつながっていくことも知り、いくら大きな国でも、それを支えるのは国民で、その国民が食べることができなければ、大国でも大きなダメージを受ける、つまり国は農業によって支えられているという面もあるのではないかと思った。また歴史における、人と植物、そして農薬との関わりを知り、今の美味しい食物がどうやってできたか、そして何故農薬を使っているのか、歴史的背景や社会情勢との関わりなどについても話され、とても興味深く聴くことができた。充実した研究活動につなげていきたい。

芦田 竜一（福知山市立成和中学校）

